

## 推薦調書（アイデア部門）

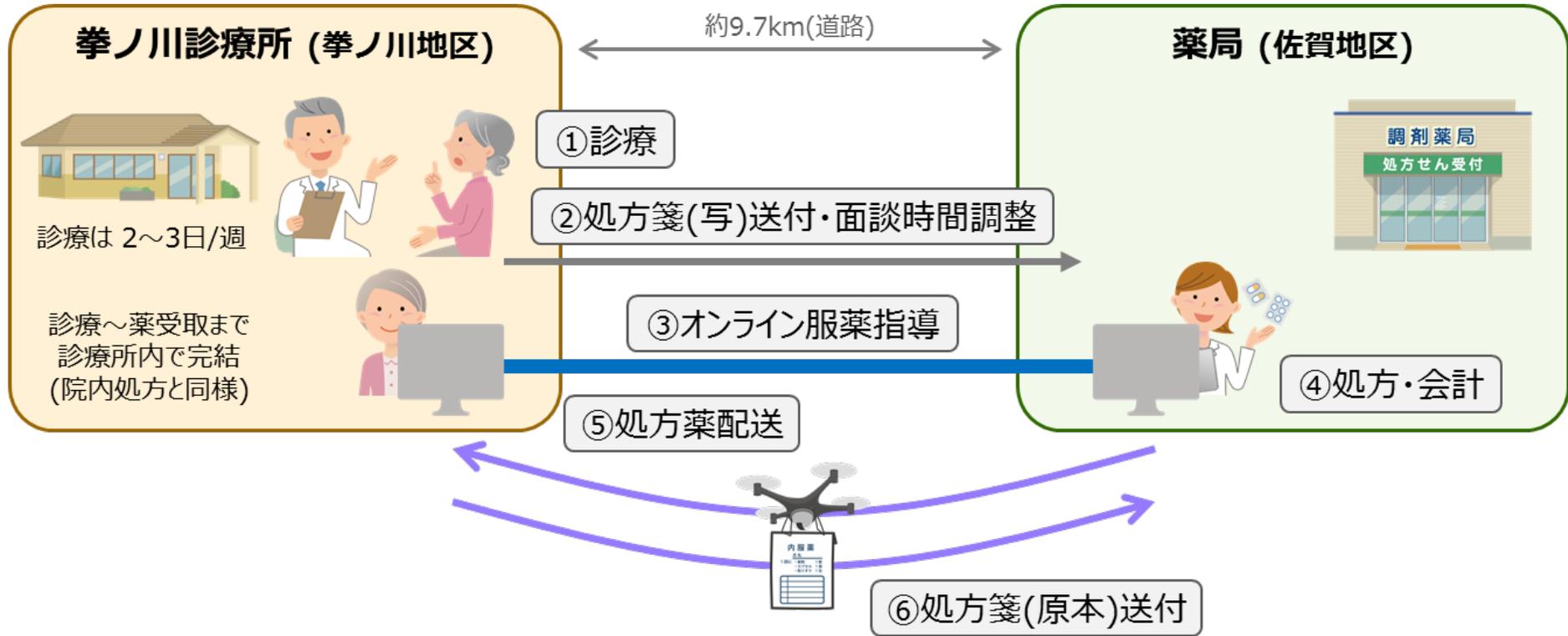
		推薦都道府県	高知県
地方公共団体名	高知県黒潮町		
アイデア名称	ドローンを活用した安心・安全・いきいきと暮らせるまちづくりプロジェクト		
連携自治体、企業、団体等	黒潮町、薬局、道の駅、集落活動センターほか		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的な内容）	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 医療、物流、防災
	<p><b>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</b> ドローンを活用して、以下を実施します。</p> <p>① オンライン服薬指導及び処方薬のドローン配送 ② 「今できたよ」サービス ③ 徘徊等による行方不明者の捜索 ④ 災害時における被害調査及び行方不明者の捜索 ⑤ 災害時における救援物資のドローン配送</p> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <p>i) 本町の拳ノ川地区において、診療所（町営）から最寄りの薬局（佐賀地区）まで約 10km の距離があり、特に交通弱者の処方薬の受け取り困難が喫緊の課題となっている。</p> <p>ii) これまで配送手段を持たない農作物等の生産者向けに庭先集荷を行ってきたが、費用面より昨年度で打ち切りとなった。しかしながら、農作物の栽培や飲食物の製造が生きがいとなっている高齢者も一定数おり、出荷手段の確保が必要となっている。</p> <p>iii) 本町には道の駅や集落活動センターがあるものの、午後以降は商品も少なくなり、訪問者にとって魅力が減少している。本町は高知市から高知県西部（幡多地域）への交通の要衝となっており、ドライブ途中に立ち寄る人も多い。利用客へ 1 日を通して魅力的な商品を提供し、地産外商に繋げることが課題となっている。</p> <p>iv) 主に認知症高齢者による徘徊事案が年間数件発生し、都度、地元消防団や警察による捜索等を実施、多大な労力を要している。</p> <p>v) 佐賀地区は南海トラフ地震において、最大津波 34m を想定しており、災害時には迅速な被害調査、生活物資の配送が必要である。</p> <p><b>【解決する課題の具体的な内容】</b></p> <p>i) 本地区間はバスが少なく、またタクシー会社もない（大方地区に 1 社 1 台）ことから、患者が移動できない前提で対策を協議した。結果、診療所がある保健センター内でオンライン服薬指導を行い、処方薬をドローンで輸送することとした。</p> <p>ii) iii) 生産者にとって出荷する手段さえ確保できれば作り続けたい要望が多く、また獲れたての野菜や鮮魚、和菓子、惣菜類を中心にファンが多</p>		

	<p>い。さらには生産者の健康寿命を延ばす面においても有効であることから、少量・多拠点でも輸送できる手段としてドローンの活用を検討した。またドローンで輸送する状況を SNS 等で発信することで話題性を生み、商品の到着自体をも楽しめる利用客への新たな価値提供を考えた。</p> <p>iv) 搜索の補助となるツールとしてドローンを検討した。人の行動については、歩容認証技術の研究が進んでおり、認知症特有の行動を分析、AI で学習させることにより、センサーを搭載したドローンで識別が可能になることを目指す。</p> <p>v) 災害時の調査、救援物資の輸送は既にドローンで多数実証実験が行われており、これらのノウハウを活用することで、比較的容易に実用化ができると考えた。</p>
<p>デジタルの活用により目指す成果（数値）</p>	<p><b>【取組が目指すアウトプット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンによる医薬品配送数：4年度5件、5年度10件、6年度15件</li> <li>・「今できたよ」サービス提供先：5年度10軒、6年度20軒、7年度30件</li> <li>・災害時における被害調査及び配送実験：4年度2回、5年度5回、6年度5回</li> </ul> <p><b>【取組が目指すアウトカム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今できたよ」サービスによる売上目標：5年度5百万、6年度7百万</li> </ul> <p><b>【取組が目指す総合的なアウトカム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅訪問客数：5年度800千人、6年度850千人</li> </ul>
<p>本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>① 近年規制が緩和されたオンライン服薬指導と、交通弱者、かつ比較的早く薬を必要とする患者のニーズを満たしたい。</p> <p>② 自分の作ったものを食べてもらうことに生きがいを感じる高齢者と時間帯を問わず訪問した交流施設（道の駅、集落活動センター等）でおいしいもの、希少価値が高いものを食べたい利用者のニーズをマッチングしたい。</p> <p>③ 過疎地域の「人が少ない」ことを逆手に取り、近年発達しているAI技術と組み合わせることで、行方不明者搜索の支援を実現可能にしたい。</p> <p>④⑤ 災害発生時の迅速な状況調査、物資の配送を実現可能にしたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～4年12月：ドローン業者の選定、実施対象薬局との協定締結、オンライン服薬指導に関する実証実験</li> <li>・～4年12月：処方薬のドローン配送に関する実証実験</li> <li>・～5年3月：ドローンによる避難物資の輸送実験</li> <li>・～5年9月：「今できたよ」サービス実証先選定</li> </ul>

地域概要



「① オンライン服薬指導及び処方薬のドローン配送」概要図



「② 「今できたよ」サービス」概要図

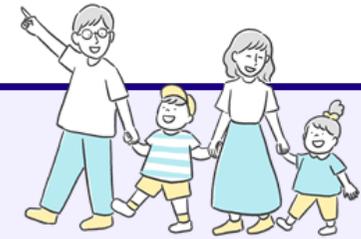
### 作り手(生産者)



料理は好きだけど...

- お店をやるほど労力やお金もない
- その日に獲れた食材で料理したい
- 自分で出荷する手段がなく、集荷時間にも間に合わない
- 作りたてを食べてもらいたい

### 買い手(消費者)



- 目的地へ行くついでにちょっと寄り道してその土地の美味しいものを食べたい
- いいものは朝早くに売れてしまい、なかなかいいものに出会えない
- なかなか食べられないものを食べたい!

おいしい料理



ドローン



「その日の味」をドローンが運びます!



交流施設  
(道の駅、集落活動センター等)

「朝一」でなくとも  
おいしいものに出会える!

今できたよ  
サービス

「② 「今できたよ」 サービス」 概要図



いつきても何かが届く、ワクワクする道の駅に！ お年寄りの生き甲斐にも！

### 「③ 徘徊等による行方不明者の搜索」概要図

#### 【行方不明者の定義】

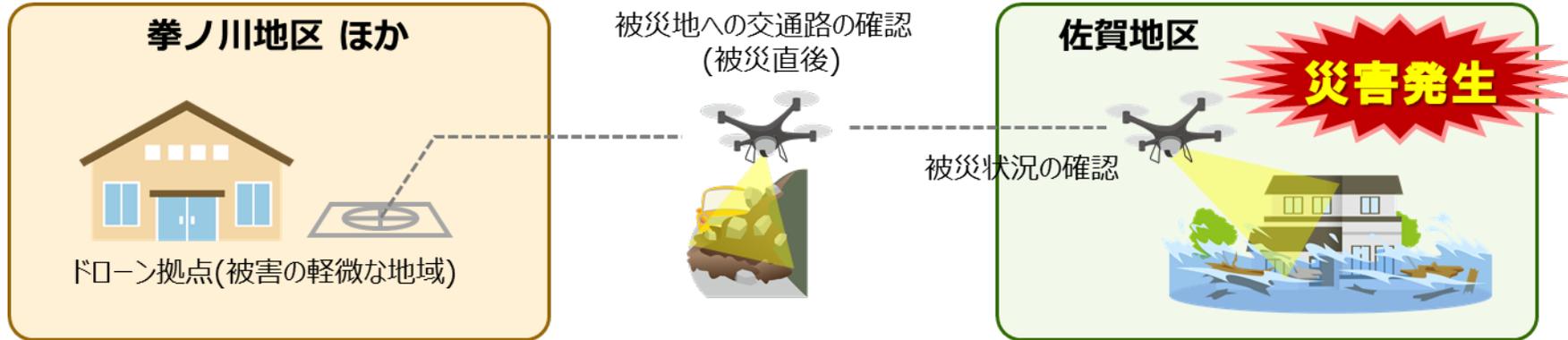
本ケースでの行方不明者は、認知症を中心とした徘徊を想定しています。

町内でも年間数件発生し、そのたびに防災無線での一斉呼びかけ、消防団による搜索など、大掛かりな搜索活動が行われています。



「④ 災害時における被害調査及び行方不明者の捜索」「⑤ 災害時における救援物資のドローン配送」概要図

④ 災害時における被害調査及び行方不明者の捜索 概要図



⑤ 災害時における救援物資のドローン配送

